



## □巻頭言

### 水原華城のかき氷

熊本学園大学外国語学部准教授

東アジア学科長 土井 浩嗣

先日、研究室をかたづけしていたら、懐かしい写真が出てきた。韓国留学中であった W 杯前年の 2001 年夏、

両親・妹と一緒にソウル南方の水原華城を訪れたときのものだ。水原華城は、朝鮮国王・正祖代の 1796 年に築造された城で、日本の城郭とは異なり、八達山から市街

## □■□学科の最新ニュース！□■□

今年は、2年ぶりにオープンキャンパスが開催されました。なかでも8月11日は、大雨にもかかわらず多くの方に来ていただきました。また、入試のスタートとなる総合型選抜では17名の出願がございました。お話をできた高校生のみなさんが明確な目標をもっていたのが大変印象的で、来年が本当に楽しみです。

地にかけて1周約5キロの城壁がめぐらされている。炎天下の中、家族で城壁の上を半周近く歩き、たどりついた華虹門で、7つのアーチ状の水門が連なる美しい情景を眺めながら、かき氷を食べた思い出が鮮やかによみがえってきた。

## □BTS と特別な聴者との対話—多声的叙事の研究

韓国の大衆文化の中心に立った BTS が世間に初めて登場したのは 2013 年である。2015 年、2016 年の華様年華シリーズと WINGS シリーズで韓国で続けてトップに立ち、2017 年の LOVE YOURSELF シリーズ以降、次々とビルボード 100 入りを果たして、今ではアメリカの 3 大音楽授賞式の舞台全てで公演したグループとなった。

ここで注目すべきは BTS のファングループ、ARMY との疎通/対話である。BTS の結果物は ARMY の結果物でもあるからである。彼らは単なるファングループを超えて、BTS の歌詞などをリアルタイムで数十カ国語に翻訳したり、彼ら自身が直接歌詞の中に登場したりもする。そして場合によっては直接行動を取る事もある。南米やヨーロッパをはじめとする全世界 35 グループの ARMY は、BTS メンバーの誕生日を記念して、子どもの治療と教育、社会的弱者のための寄付に乗り出した。一体どうやってこのようにとてつもない共感帯、M.バフチンのように言えば「特別な聴者」との対話が可能になったのだろうか。

「学校 3 部作」以降に発表した青春 2 部作「花様年華」シリーズは、少年から青年になっていく過程の率直な自己内面を描いている。水と火、蝶、花（スメラルド）のような象徴と叙事を通じてそれぞれの痛みを告白し、慰め、自我の新しい成長過程を描いている。メジャーエンターテイメントでもなく、ラッパーでもアイドルでもない不安な出発点に立った BTS の真正性は、同じ不安な

東アジア学科教授 申 明直

全世界の若者の共感を得るに十分であった。

また、受容美学者の V.イーザーが言及したように ARMY は、BTS の言葉が示す不確定性のギャップを、自らが能動的な受容者となって BTS の言葉と対話し疎通する事で、新たな叙事を作っていた。したがって BTS の言葉は、一方的で啓蒙的な言葉（単声性）ではなく、インターネット媒体の双方向性に基づいた共同創作（多声性）の産物ともいえる。

BTS と ARMY の対話は、正規 3 集「LOVE YOURSELF」と 4 集「MAP OF THE SOUL」でより深まっていく。C.G.ユングの分析心理学を解説した「心の地図」をタイトル通り携えてきた BTS は、仮面をかぶった自分（「Persona」）も、アニマ・アニムスが投射されたもう一つの自分（「DNA」と「Her」）も、無意識に抑えられて隠れているもう一つの自分（「Shadow」）も、すべてが一緒に抱いていくべき自分自身であることを悟っていく。そしてこれを最も圧縮的に表現している言葉が、アルバムのタイトルでもある「LOVE YOURSELF」である。ARMY は、よく BTS を通じて心の癒しを得たと言うが、これはいくら苦しくても自分自身を愛しなさいという、BTS のメッセージに大きな慰めと響きを経験したからである。BTS と ARMY の対話/共同創作はこのようなお互いを治癒し慰め合う。発信者と受信者という従来の一方的・二分法的な文法では、かれらの対話は決して理解できない。

## □「出張日記」に代えて

相変わらず出張にも旅行にも行けない日々が続いている。本学に着任してから半年たつが、熊本を出たのは鹿児島の実家に帰省した時だけである。大学時代には中国のいろいろな街に列車で旅行に出かけたが、目的の駅に着いたらまず始めにやるがあった。駅前のロータリーで、声をかけてくる少々強引なタクシー運転手たちを振り切って、地図を売っているおばちゃんを探すのである。北京や上海ならいざ知らず、それほど有名でもない地方都市では日本のガイドブックは役に立たない。いや、中国のガイドブックも、当時はあまり使い勝手のいいも

東アジア学科准教授 田上 智宣

のがなかった。そこで、紙の地図を手に入れ、それを頼りに行動するのだったのだ。激変する中国社会において、あれから 20 年という歳月を彼女らがどのように生きたのかは知る由もないが、今はもう紙の地図なんぞ売っていないことだけは確かだろう。今の旅行は、事前にネットで綿密な下調べはできるし、着いてからはスマホが案内してくれる。いささか味気なくもあるが、人間やはり便利さには敵わない。また海外に行けるようになったら、あの時捨てずにとっておいた地図を持って、見比べながら街を歩いてみるのもいいかもしれない。

## □東アジアのあれこれー満洲語の学習

学生時代に買ったままにしてあった『現代満語八百句』（中央民族学院出版社 1989 年北京）という本を引っ張り出してきて満洲語の勉強をしている。満洲語は清朝を建てた満洲族の言語でありながら今では消滅の危機に瀕しており、彼らの母語はほぼ中国語（漢語）となっている。同書は 80 年代当時、満洲語の保存状態が比較的良いとされた黒竜江省富裕県三家子という村の老人の満洲語を基に編纂された会話集だが、「60 歳以上の老人は満洲語を上手に話す」という意味の会話文があり出版年を基準にすると 1929 年以前に生まれたこの村の人は上手に話せるということになる。満洲語は日本語と同じく S

東アジア学科准教授 野田 耕司

O V 言語で「を」「に」「より」に相当する格助詞（後置詞）もあり、S V O 言語で前置詞を用いる中国語とは系統が異なる。言語学的に言っても満洲語から中国語への移行は日本語から英語へ乗り換えるほどの大きな変化なわけだが、米国の日系二世・三世の言語状況を見れば、こうした言語交替は意外と時間を要しないのかもしれない。特に話者数や文化・社会的に優位にある大言語の下では尚更であろう。英語同様メジャー言語である中国語を専門とする私としては少々複雑な思いで満洲語を独習している。

## □新書紹介 トーマス・S・マラニー著、比護選訳

『チャイニーズ・タイプライター——漢字と技術の近代史』（中央公論新社、2021 年）

タイプライターは、今では廃れてしまったが、当時の人間にとって、きれいに並んだ美しい文字を迅速に打ち出す驚異的な技術であった。欧米のアルファベット文化の優位性を象徴する機械でもあった。タイプライターの原理は、キーがあり、それぞれのキーにはアルファベットの 1 字が対応するというものである。この原理に従うと、漢字タイプライターには、限られた面積のキーボードに二千以上のキーが必要となる。このキーの数の問題を解決するために二方向から模索が始まった。一つは文字を表音文字だけにして、文字数をキーボードの面積にあわせること、もう一つは、別の原理に基づくタイプライターを技術的に開発することである。要するに機械の原理に合わせるか、文字の原理にそった機械を開発するかである。結果的に、日本では、前者はカナモジタイプライター、後者は 1915 年に邦文タイプライターとして実現した。本書は漢字だけを使う中国語タイプライターを作り上げるための、野心家達の試行錯誤の物語で、無意識にやっているパソコン入力について考えさせられる本でもある。

（東アジア学科教授 矢野 謙一）



### ■編集後記■

感染状況が落ち着いたことで、対面授業中心に戻り、学生と雑談できる機会が増えました。先日のゼミでも学生と「そろそろ現地で韓国料理を食べたいね」という話になりました。韓国料理店のレベルも上がっていますが、冷麺はまだ現地と差が大きいような気がします。次に食べたときは感動してしまうかもしれません。（ど）

発行者 熊本学園大学外国語学部東アジア学科  
編集人 土井 浩嗣（東アジア学科長）  
〒860 - 8680 熊本市中央区大江 2-5-1  
Tel 096-364-5161（代表）